

# 助成制度を有効に使おう

## 「中小企業労働力確保支援事業」の認証を受けた中田商事

### 改造計画

ト協、各市町村、行政などから運送事業者への助成・支援は数あるが、意外と知られていないことが多い。三重県に「いろいろ勉強して、助成制度にすっかりくわしくなったよ」と語る事業者がある。積極的に助成制度に取り組むことで、思わぬ形で仕事に結びつくこともあるようだ。

平ボディーを使った機械モノ、鋼材運搬をメインとする中田商事（上野市）では、九月に中小企業経営革新支

援法の認証を受けたことに続き、このほど、それをさらに細分化した「中小企業労働力確保支援事業」の認証を受けることとなった。

厚生労働省・中小企業庁による同事業は、労働力確保を目的にした中小企業の雇用管理の改善に関する事業計画（改善計画）の認定を受けた事業者に対し、助成及び援助を行うというもの。同社は助成として①中小企業基盤人材確保助成金②中小企業雇用創出等能力開発助成金、の支給を受ける。

①は改善計画に従

い、新しい分野に進出する際の基盤強化となる労働者（基盤人材）を雇用する際、1人あたり150万円（1企業5人まで）支給されるなどの助成②は社内で職業訓練を受けさせる際に講師の謝金、設備の借料、教科書などの教材、また外部で行う際の入学料や受講料の2分の1（1人10万円が限度）などが支給される。

### 提案型企業へ

「自社の標準を作りたい」として改善計画に取り組んだ中田純一

社長。同社の改善計画は2つ。1つは大型天井クレーンを2台装備した倉庫を取得することにより、荷物の積み替え、積載率の向上、配送の効率化などに取り組み、提案型物流企業への転換を図る。2つ目はデジタコを導入

という荷主が大阪から訪ねてきたという。また、地元の荷主社長から直接電話があったり、老舗の運送事業者から経営の相談を持ち込まれたり、起業わずか3年足らずの会社とは思えない躍進振りだ。



▼中田純一社長▲

することで、適切な運行管理、安全運行の指導、運行状況の把握による燃費消費などにより価格競争力を持ち、他者との差異化、競合に対応するという。

先日、同社の取り組みをHPで見て「経営革新に取り組んでいる事業者を探していた」

しかし、「良い時は仕事も人も向こうから来てくれる。今だからこそ、気を抜かずに周りを見て勉強しなくては」と、浮かれた様子はない。すでに次の目標であるグリーン経営認証制度についても、着々と動き始めている。（三輪 功）